

## 平成 29 年度 (2017)

### 国語 (第三回)

| 設問    |    | 得点率<br>(%) | 設問    |    | 得点率<br>(%) |
|-------|----|------------|-------|----|------------|
| 1 説明文 | 問1 | 45.4       | 2 物語文 | 問1 | 95.6       |
|       | 問2 | 47.8       |       | 問2 | 56.1       |
|       | 問3 | 52.4       |       | 問3 | 93.0       |
|       | 問4 | 41.4       |       | 問4 | 41.1       |
|       | 問5 | 14.9       |       | 問5 | 50.1       |
|       | 問6 | 97.4       |       | 問6 | 97.4       |
|       | 問7 | 85.4       |       | 問7 | 97.9       |
|       | 問8 | 64.8       |       | 問8 | 43.8       |

1 出典：伊藤亜紗『目の見えない人は世界をどう見ているのか』

- 問一 1 頁上段 3 行目傍線 (1)「パリのシャンゼリゼ通り」の例示の意味を問う問題です。この傍線箇所直前に「とくに西欧の文化では視覚が非常に重要視されています」とあり、このことを具体的に示すため、とまとめると正解になります。なお、設問では「何のために」という問い方をしていますので、解答の文末を「～ため。」とすることが求められます。参照すべき箇所はわかっているようでしたが、「具体的に示す」という要素まで含まない答案が多くありました。得点率は約 45% でした。
- 問二 1 頁上段 9 行目 2 に入る 2 字の漢字を問う問題です。ここは「白羽の矢を立てる」という表現がありますので、「白羽」が入ります。「一本」「三本」「白波」といった誤答が見られ、得点率は約 48% でした。
- 問三 1 頁上段 26 行目傍線 (3)「見えないことと目をつぶることとは全く違うのです。」とあるその違いを説明する問題です。この箇所の「見えないこと」というのは「目の見えない人が世界を感じる状態」を指していますので、その説明をしている 1 頁下段 40 行目「視覚なしでも立てるバランスを見つけている」あるいは 42 行目「視覚抜きでバランスで世界を感じてみる」といった箇所を利用して書きます。また、「目をつぶること」というのは「目の見える人が目をつぶること」を指していますので、1 頁上段 29 行目「視覚情報の遮断」あるいは下段 30 行目「見えている状態を基準として、そこから視覚情報を引いた状態」を参照します。「見えないこと」と「目をつぶること」が対比的な書き方に

なっていないものが散見されました。「視覚抜きで成り立っている」「視覚情報の遮断」の2つの要素があって4点という答案が多かったです。得点率は約52%でした。

問四 1頁下段42行目<sup>4</sup>に入る二字の漢字をこれ以前の文中から探す問題です。このあとに「そうした視覚抜きのバランスで世界を感じてみる」というのは目の見えない人の感じ方であり、そういう感じ方をしてみたいと思うことを筆者は上段12行目「視覚を使わない体に変身してみたい」と表現しており、この「変身」は上段14行目、22行目、下段32行目でも繰り返し出てきます。答えは「変身」です。「実感」「補色」「体験」などの誤答がありました。得点率は約41%でした。

問五 2頁上段76行目傍線(5)「昆虫や動物も立派な意味の構成者です。」を説明する問題です。85行目から下段99行目までがその具体的な説明となっていますので、このあたりをまとめます。特に2頁下段96行目「自分にとっての世界」や98行目「自分にとって、またそのときどきの状況にとって必要なものから作り上げた」などを参照して、たとえば、「自分やそのときどきの状況にとって必要なものから世界を作り上げているということ」というようにまとめます。なお、「どういことですか」という設問なので、解答の文末は「～こと。」となる必要があります。多くの答案が「意味を与え世界を構成しているということ」といった、傍線箇所を繰り返しているようなものになっていました。得点率は約15%でした。

問六 <sup>A</sup>から<sup>D</sup>に適切な接続詞を入れる問題です。<sup>A</sup>は直前にある「情報」という言葉について直後で具体的に例示していますので、エの「たとえば」、<sup>B</sup>は「情報」の受け手、本文でいうところの「小学生」、「傘屋」、「農家」そして「災難続きの人」という同質の要素をつなげる役割ですので、イの「あるいは」、<sup>C</sup>は直前までの内容を直後でまとめていますので、アの「つまり」、<sup>D</sup>は直前までモンシロチョウは午前中、花の存在に目もくれないことについて述べ、直後では急に花が見え始めることについて述べていますので、逆接の意味であるウの「ところが」がそれぞれ入ります。ほとんどの受験生が正解でした。

問七 漢字の書き取りです。楷書で丁寧に書く必要があります。「由来」が「油来」、「定義」が「提義」「程義」、「暗示」が「案示」となっている答案がありました。得点率は約85%でした。

問八 本文の内容に合致しているものを選ぶ問題です。2頁下段103行目「見えない人と見える人の関わり方の提案でもあります」とあり、これは選択肢アと合致します。したがって正解はアとなります。他の選択肢を見ますと、イでは、後半の「他の感覚を感じる人よりも強くする」というのは本文にはありません。ウでは、後半の「見える人とはまったく変わらない世界であると考えている。」というところが本文と合いません。エでは、後半の「『情報』ではなく『意味』の方が重要である」という箇所が、本文の2頁下段105行目「そこに『意味』ベースの関わりも追加していきたい」に反します。得点率は約65%でした。

2 出典：中島京子『ぱっと消えてぴっと入る』

問一 4 頁上段 9 行目傍線 (1) 「しかし、家族と離れてどこかへ行くなんて、考えただけで恐ろしいことだった。」の理由を問う問題です。4 頁上段 2 行目「団地の個々の家はそっくりの形をしていて、どこにも似たような家族が暮らしていて、いつ、私の家族と入れ替わってしまうかわからない。」という箇所に着目します。これとほぼ同様のことを述べているのはウですので、正解はウです。他の選択肢を見ますと、アでは、はじめの「住んでいる団地の周囲には似たような建物が多く」というところが本文に合いません。イでは、前半の「よく似た外見の家族」というのが本文を離れた表現となっています。エでは、「動物の巣のように多くの人たちが住んでおり」以下が本文と異なっています。ほとんどの受験生が正解でした。

問二 4 頁下段 51 行目傍線 (2) 「母はヘンな顔をした。」の理由を問う問題です。4 頁下段 61 行目「「あんた、ここに来たことがあるの？」と尋ねているところから、「母」は「わたし」が以前この喫茶店に来たことがあるのを知りません。それで、マスターが「いいんですよ。あそこ、気に入ってるから」と言ったことを不審に思ったのです。解答としては、「初めて入った喫茶店のつもりだったのに、マスターが娘のことをすでに知っているかのように話したから。」というようにまとめます。なお、理由を問う問題なので、解答の文末は「～だから。」というようにします。「マスター」ではなく「娘」の様子を中心に書いている答案が多数見られました。得点率は約 56%でした。

問三 6 頁上段 89 行目傍線 (3) 「次から次へと現れる男たちが、みんなして祖母を知っている」ということの意味を問う問題です。5 字以上 10 字以内という条件にあう語句として、6 頁上段 131 行目「店の仲間の一人」を抜き出し、「男たちにとって祖母は店の仲間の一人だったから。」という文になります。ほとんどの受験生が正解でした。

問四 6 頁上段 145 行目傍線 (4) 「戦略」を説明する問題です。ここは「母」が「戦略」を練っていた、ということなので、「母」がこの後、何をしたのかという点を考えます。上段 150 行目に「母は別の病院に仕事を見つけてきたのだった。」というのが目的にあたります。そのためには「わたし」が学校に行けるようすること、集団生活に慣れるようにすること、団地のなかの自分の家を見つけられるようにすることが必要です。こういったことを整えて、誰が何のために何をすること、という形にします。ほとんどの答案は「自分の家を見つけられる」への言及がなく、また、「再就職のため」ということからのつながりが書けていませんでした。得点率は約 41%でした。

問五 6 頁上段 152 行目傍線 (5) 「気がついたときには、集団登校で学校に行き、帰りは一人で喫茶店に駆け込む毎日を送っていた。」ということが可能になった理由を問う問題です。上段 155 行目「わたしは一人ではないと思えるようになっていた」というがその理由ですが、さらに 157 行目からの段落にある「死んだ祖母がわたしの心の中に入り込んで会話をする」といった内容も必要となります。「一人ではない」という要素が書けていない答案が多く見られました。得点率は約 50%でした。

問六 慣用句の問題です。一がウ、二がエ、三がア、四がイ、五がオです。ほとんどの受験生が正解でした。

問七 [A]～[D]に適切な副詞を入れる問題です。[A]がア、[B]がウ、[C]がイ、[D]がエです。ほとんどの受験生が正解でした。

問八 本文の内容に合致しているものを選ぶ問題です。正解はイです。他の選択肢を見ますと、アは前半に「家族と離れて一人になるのが怖くて仕方がなかった」とありますが、「わたし」が恐れていたのは、単に「家族と離れること」ではなく、4頁上段9行目「家族と離れて独りでどこかへ行くなんて、考えただけでも恐ろしいことだった」とありますので、誤りです。ウでは後半の「はじめのうちはわざとそしらぬふりをしていた。」というのが本文に合いません。エでは、後半に「若いころからコーヒーや紅茶が好きだった」とありますが、それは本文には出てきません。得点率は約43%でした。